



東京大学教授による事前特別レクチャー



南三陸町の被災地・復興商店街見学  
(被災者の語り部ガイド付き)

人とつながる、視野が広がる

# まなび旅・宮城



地元登米市民による歓迎 BBQ



県内最大規模の仮設住宅団地での夏祭りにボランティアとして貢献

宮城県登米市南方町旧イオン跡地仮設住宅団地（以下、南方仮設）の敷地内において、東北復興の旗揚げとなる夏祭りが8月20日（月）に予定されています。この夏祭りにボランティアとして、そして参列客として参加しませんか？しかも、今回は「まなび旅」ということで、東京大学教授による事前特別レクチャーや、南三陸町の被災地・復興商店街見学（被災者の語り部ガイド付き）も旅程の中に含まれています。

8/18(土)~21(火)

参加費 **29,800** 円

応募締め切り 7月27日（金）

申込み先

HSF 事務局  
<headquarters@hsf.jp>

※件名に「HSF まなび旅参加希望」とご記名の上、  
①お名前、②ご住所、③緊急連絡先をお知らせください。お支払い方法等は参加希望者の方への返信メールで改めてご案内します。

（交通費、宿泊費、講師料、現地アテンド料込み）食費は各自負担  
特典：夏祭り飲食チケット1000円分付き（内容：ビールorジュース、焼き鳥、フランク、枝豆、お楽しみ抽選会用の抽選番号）

チケット代1000円は、夏祭り主催側の売り上げとして、仮設住宅で暮らす人々に還元されます。



東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム（HSP：Human Security Program）の教員と学生の有志が中心となって2011年4月に設立されたNPO法人です。大学という枠組みを越えて、広く公共領域における人間の安全保障に関する実践（人ひとりひとりの命・生活・尊厳を守る）を目指しています。現在の主な活動として、宮城県の被災地域における教育復興支援や東京都内での国際協カイベントの開催などに取り組んでいます。  
ホームページ：http://www.hsf.jp/



事前特別レクチャー・タイトル：

『ボランティアツーリズム—観光人類学の視点から』

講師紹介：

山下晋司（やましたしんじ）  
NPO 法人「人間の安全保障」フォーラム理事長。東京大学大学院総合文化研究科教授。専門は文化人類学。  
トランスナショナルリティ（越境）という視点から、観光や移住といったテーマを取り上げ、グローバル化にともなう新しい社会の展開や文化の生成について研究している。「人間の安全保障」プログラムを兼任し、移民政策、シティズンシップ、人権の問題にも関心を持っている。著書に『バリー観光人類学のレッスン』（東京大学出版会、1999年）、『観光人類学の挑戦—「新しい地球」の生き方』（講談社、2009年）など。編著に『観光文化学』（新曜社、2007年）、共著に『人間の安全保障—視線と地平』（高橋哲哉・山影進編、東京大学出版会、2008年）など。



## 旅行プラン

- 18日 午後3時~4時30分 山下教授による事前特別レクチャー  
教室 東京大学駒場キャンパス18号館4階コラボレーションルーム3
- 19日 午前9時 東京大学駒場キャンパス正門前に集合・出発（移動手段：バス）  
夕方 宮城県登米市到着 ※宿泊場所「迫ふるさと交流館」  
地元登米市民との歓迎 BBQ（夕食）
- 20日 午前 南三陸町の被災地・復興商店街見学（被災者語り部ガイド付き）  
午後 祭り準備ボランティア  
午後5時~8時 夏祭り
- 21日 午前 祭り片付けボランティア  
正午 登米市出発  
夜 東京大学駒場キャンパス正門前に到着（解散）

※旅程が変更になる場合がございます。



祭り開催予定地となる南方仮設。350戸の仮設住宅が建造され、1,000人近い南三陸町出身の被災者の方々が暮らす、県内の最大規模の仮設住宅団地です。



南三陸町志津側地区。南方仮設に暮らしている人々の多くがこの地域に暮らしていました。



迫ふるさと記念館。参加者の皆様に泊まって頂く予定の施設です。